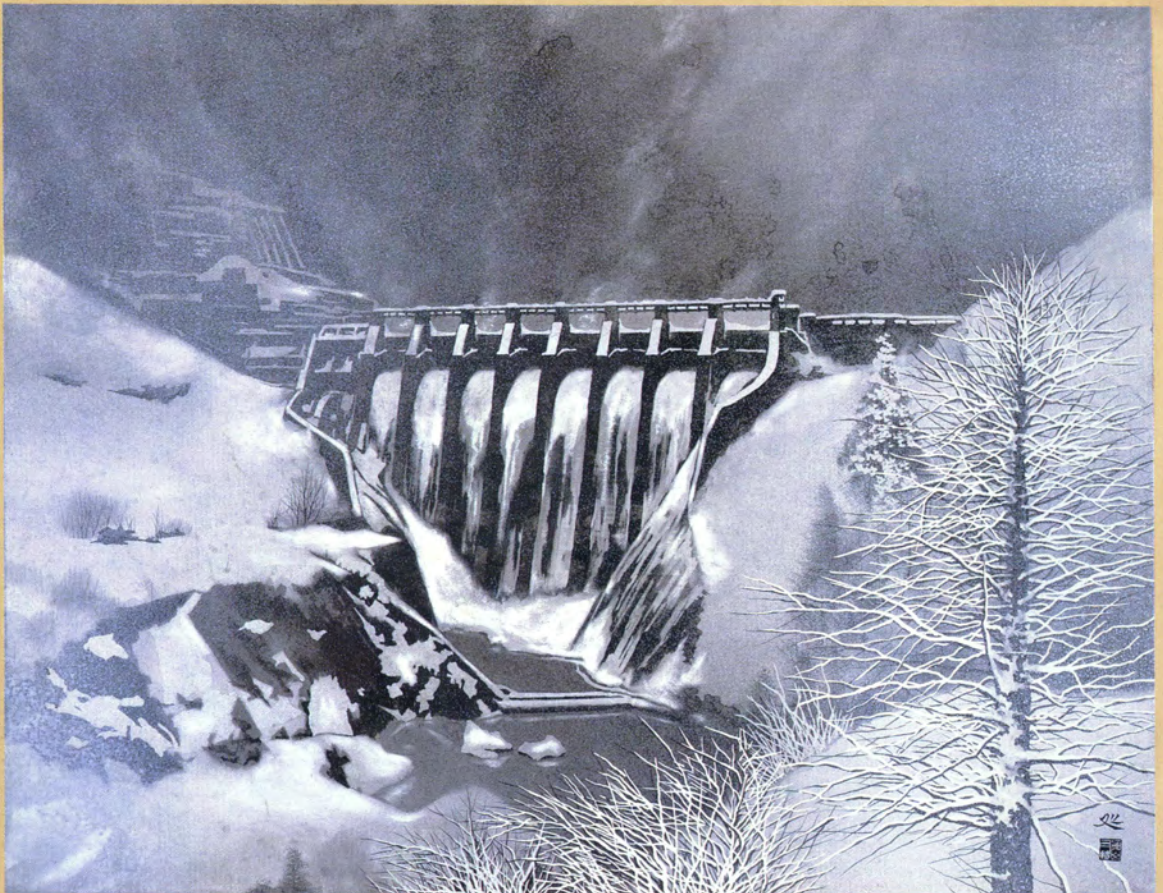




1984/2 NO. 181





# 新春放談

# 住みよい富山

## 自然に恵まれた富山県

司会 きょうは、放談というこ  
とで、「住みよい富山」について

気楽に話していただきたいと思  
います。

司会 昨年の八月に行われた県  
政世論調査によりますと「富山  
というところは良いところか」  
という質問に対して、七割以上  
の方が「とても良い」あるいは  
「良いところである」と答えて  
います。

その理由として、「非常に自然  
環境に恵まれている」という答  
えが半分以上を占めています。

このように、富山県というの  
は自然に恵まれている県ですが、  
生粋の江戸っ子でいらっしやる佐  
々さんからご覧になりました、  
富山は、どのように目に映りま  
したでしょうか。

佐々 私はおとしの四月に富  
山に來まして、まだ雪が残って

この放談は、1月2日に  
放送された「こんには富  
山県です」(KNB)を紙上  
掲載したものです。  
なお、紙面の都合上、一  
部添削してあります。

- 出席者 (敬称略)
- 中沖 豊 (富山県知事)
- 佐々 学 (富山医科薬科大学長)
- 松岸得之助 (ナチュラリスト)
- 花柳 松香 (日本舞踊家)
- 司会 稲垣 健次 (アナウンサー)

現代日本画壇のスーパースタ  
ーと言われる加山又造氏が、100  
人100景展の制作取材のために来  
県されたのは、昭和五十八年一  
月中旬でした。

五十歳に満たないと思われる  
瘦身に小柄な身体を、大きめの  
ダウンジャケットにすっぽりと  
包み込んだ氏のユーモラスな格  
好に思わず笑うと、「南極越冬隊

氏は第二次大戦後、ピカソや  
ブラックラの立体派の理論を日  
本画に導入したり、近年は、や  
まと絵や元禄時代の琳派(光琳  
派)の様式を取り入れた装飾的  
な作品を描いていますが、いず  
れも単に過去の様式をまねるの  
ではなく、現代人のものの見方、  
感じ方や知性を鋭く反映させた  
全く新しい日本の美を描きだそ  
うとしています。

この作品についても「水墨画  
で、現代の雪ざれの風景を造っ  
てみたかった。」と述べています。  
ここにも氏の、あえて水墨とい  
う最も古い伝統的な材料を用い  
て現代を表現してみようとする  
積極的なチャレンジ精神をみる  
ことができます。

画面全体からは、従来の水墨  
画に見られたような日本人の枯  
れたワビ、サビを表現したもの  
とは全く異なる、豪華な雰囲気  
を感じさせます。また、冬枯れの  
樹木の枝ぶりに琳派を想わせる  
装飾感がうかがわれます。  
(県立近代美術館  
主任学芸員 福井文夫)

# 富山の四季⑪ 「雪のダム」

加山又造 1983年作  
紙本・墨彩  
95.0cm × 129.0cm

## 表紙絵

みたいで、恥かしいです」とし  
きりにこちらの視線を気にしな  
がら、初な少年のように頬を染  
めておられたが、まる二日間タ  
クシーを借りきり、途中、数メ  
ートルも積雪のある庄川峡をさ  
かのぼって、一人五箇山から白  
川郷近くまで歩きました、とい  
う話を聞いていたうちに、胸が  
熱くなってきました。

## 県立近代美術館だより

### 「'84富山の美術」開催中

県立近代美術館では、去る1月5日から1月26日まで「わたしたちの壁画'84」展が開催され、多くの人でにぎわいました。




子供たちの描いた大作を展示した「わたしたちの壁画'84」

また、2月1日  
から2月26日まで  
「'84富山の美術」  
展が開催されます。  
この展覧会は現在  
活躍中の本県出身  
もしくは本県にゆ  
かりのある作家を  
選抜招待し、各作  
家の最近の成果を  
紹介するものです。  
みなさんのご来  
場をお待ちしてい  
ます。

2月号	富山の四季⑪「雪のダム」	表1・2	県内に根づく社会教育活動	22~25
	新春放談「住みよい富山」	1~5	収支報告書の提出はお早めに	25
	第14回県政世論調査結果から	6~13	トピックス・県政のうごき	26~27
	観どころ味じまん② 庄川町	14~15	お知らせ・お茶の間にお届けします県広報	28
	地域ぐるみで転作の定着化を	16~20	置県百年記念施設⑧	
	もうすぐ春です。		富山空港ターミナルビル	表3
	スパイクタイヤのはき替えは早めに	21	国民の総意で戻そう北方領土	表4



「統計からみた富山」

<p>● 持ち家比率 全国 1 位</p>  <p>富山 85.0% (昭和55年) 全国 61.1%</p>	<p>● 住宅延面積 全国 1 位 (1住宅当たり)</p>  <p>富山 138.21㎡ (昭和53年) 全国 80.28㎡</p>
<p>● 高等学校進学率 全国 1 位</p>  <p>富山 97.6% (昭和57年) 全国 94.3%</p>	<p>● 公立図書館蔵書数 (人口千人当たり) 全国 1 位</p>  <p>富山 1,604.0冊 (昭和56年) 全国 669.8冊</p>
<p>● 公民館数 全国 2 位 (人口10万人当たり)</p>  <p>富山 29.0館 (昭和56年) 全国 8.7館</p>	<p>● 植生自然度 全国 3 位</p>  <p>富山 30.9% (昭和50年) 全国 22.8%</p>
<p>● 有感地震回数 全国 3 位</p>  <p>富山 10回 (昭和47~56年) 全国 120回</p>	<p>● 救急病院数 全国 3 位 (人口10万人当たり)</p>  <p>富山 4.78カ所 (昭和55年) 全国 2.58カ所</p>

富山の良さをさらに良くするよう努力してまいります。県民のみならず富山の良さを全国津々浦々にPRしていただきたいと思っております。

今後、県といたしましても、富山の良さをさらに良くするよう努力してまいります。県民のみならず富山の良さを全国津々浦々にPRしていただきたいと思っております。

富山の良さをみこんでPR

資料で見ると、富山県は住み良さ一番なんだとされています。ですから、県民のみならず富山の良さを全国的にPRしていただきたい。富山の良さを全国的にPRしていただきたい。富山の良さを全国的にPRしていただきたい。

若者の定住を

司会 雪と言えば、最近、雪に載れている子供の姿が少なくなりましたけれど、子供が少なくなつたのでしょうか。

子供というのは、富山の未来を担っているのですが……。

知事 実は、富山県の子供の出生率を調べてみますと、全国で

一番低いんです。これは富山県の発展のためには、本当に困つた問題だと思つて居るんです。

そこで、結婚式でスピーチを頼まれたときは、「健康な赤ちゃんをたくさんつくってください。」と言っているんです。やはり、若い人にたくさん住んでいただく

知事 ところで、客観的な調査

富山県の良さを

いて、いい赤ちゃんをたくさんつくっていただくことが富山県の発展につながることに思っていますね。

そのためにも、県内にもっと高等教育機関をつくらせたり、企業を誘致したり、若い人たちが好むような文化的、体育的、都市的な施設などを整備するなどして、若い人たちが県外へ行かないようにしてあげたいと思つて居るんです。

雪の積極的な活用を

知事 また、スキーの話がありました。今までは富山県の弱点だと言われてますけれど、禍を転じて福と為す方法、つまり雪というのは資源なんだとい

う意識転換をすれば、雪も克服することができると、積極的に活用できると思つて居るんです。

花柳 雪の話ですが、想像の世界でも雪というのは格好の材料

雪は交通の障害になります。最近では除雪の機械化が進み、昔ほど雪による被害が少なくな

ります。雪は交通の障害になります。最近では除雪の機械化が進み、昔ほど雪による被害が少なくな

「森林浴をする環境については富山が最高」と語る松岸得之助さん



てらっしゃるふるさと歩道、その中でも牛岳ふると歩道なんかは半分以上が森林浴のコースなんです。

このように恵まれた森林浴のコースがありますので、県民のみなさんが森林浴で、健康にな

り、頭が良くなる素晴らしいですね。

それから、スキーのことなんですが、今まではスキーは滑ることだけになつていたんですが、最近クロスカントリースキーがやり出したんです。

そして、立山周辺というのはクロスカントリーには日本で最高の場所なんです。

知事 富山県というのは、植生自然度が本州で一番なんです。お話しのように、森林浴が非常に良いということですが、その点では本当に環境に恵まれていると思つて居るんです。

なんです。踊りでも雪にまつわる幻想的な題材がたくさんありますし、想像の文化はごくむどころか、かきたてるような良さをたくさんもつて居ると思つて居るんです。

ですから、現実の雪が降るような劇場を造つていただければいいなと思つて居るんです。

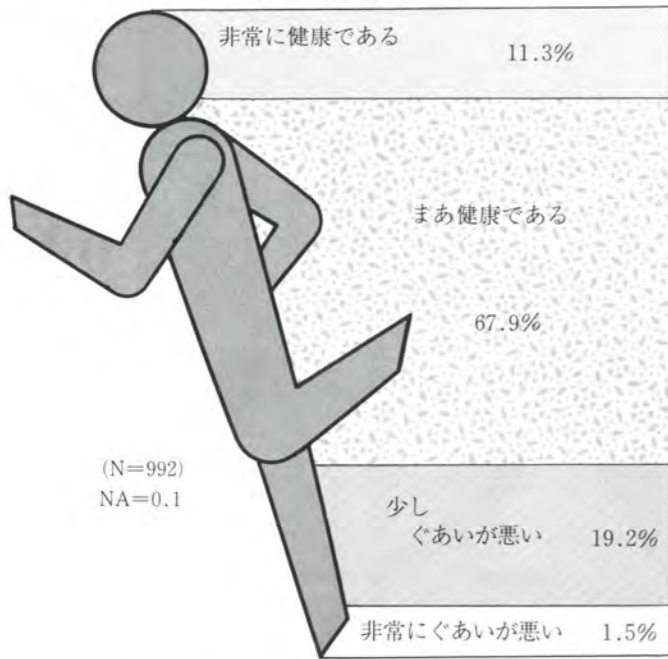
佐々 雪が降るといふのは、本当に落ち着いた雰囲気をつくってくれますね。

雪は交通の障害になります。最近では除雪の機械化が進み、昔ほど雪による被害が少なくな



「雪というのは、想像の世界では格好の材料です」と語る花柳松香さん

■現在の健康状態



現在の健康状態について聞いてみたところ、一・三割の人が「非常に健康である」と答え、六七・九割の人が「まあ健康である」と自己診断しています。また、「少しぐあいが悪い」と

では四一・三割を占めています。そして、健康維持・増進のため心がけとしては、二人に一人（五一・一割）が「休養・睡眠など規則正しい生活を心がけている」と答えています。

次いで「保健薬、強壮剤、漢方薬などを用いている」三一・六割、「カロリーや塩分に気をつけたり、栄養がたよらない食事につけていく」二七・八割などとなっています。

また、健康に関する知識の入手方法としては、「テレビ、ラジオの健康講座」二一・三割、「新聞・雑誌の健康講座」二〇・九割が上位を占め、マスコミ媒体をあげる人が多くなっています。

次いで、「医師・保健婦等による健康相談」一四・六割、「健康のしおりなどのパンフレット」一一・四割、「無料に参加できる健康講座」七・三割などの順に

## 県民の約八割が「健康」

現在の健康状態について聞いてみたところ、一・三割の人が「非常に健康である」と答え、六七・九割の人が「まあ健康である」と自己診断しています。また、「少しぐあいが悪い」と

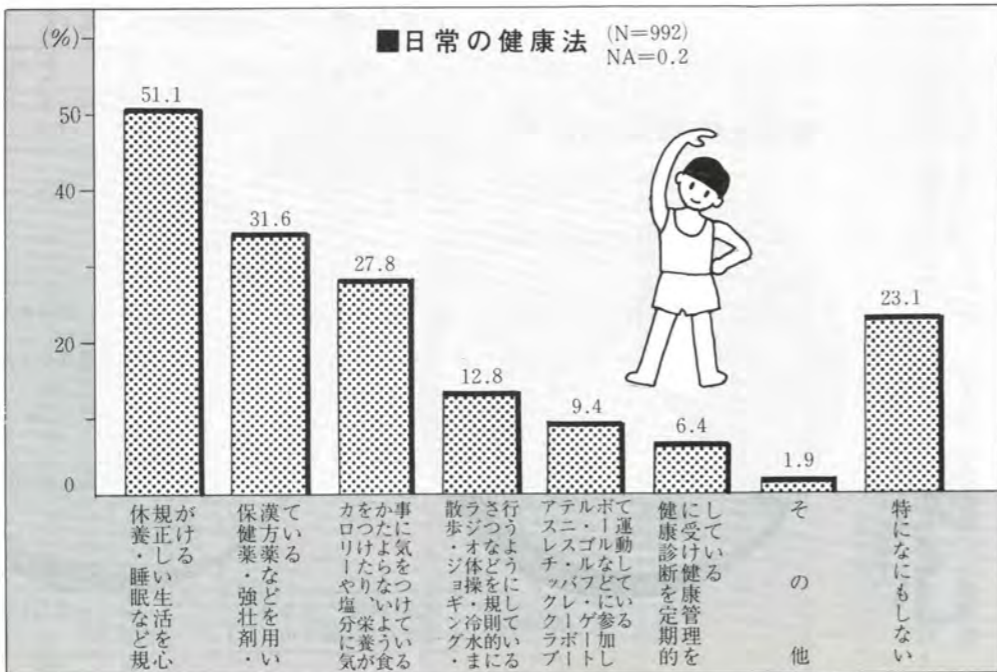
では四一・三割を占めています。そして、健康維持・増進のため心がけとしては、二人に一人（五一・一割）が「休養・睡眠など規則正しい生活を心がけている」と答えています。

次いで「保健薬、強壮剤、漢方薬などを用いている」三一・六割、「カロリーや塩分に気をつけたり、栄養がたよらない食事につけていく」二七・八割などとなっています。

また、健康に関する知識の入手方法としては、「テレビ、ラジオの健康講座」二一・三割、「新聞・雑誌の健康講座」二〇・九割が上位を占め、マスコミ媒体をあげる人が多くなっています。

次いで、「医師・保健婦等による健康相談」一四・六割、「健康のしおりなどのパンフレット」一一・四割、「無料に参加できる健康講座」七・三割などの順に

■日常の健康法



なっています。また、健康についての情報、知識を得る手段が「特になし」です。

とする健康に無関心な人が二・五割も占めることが注目されます。

## 県政世論調査報告書 第14回



富山県

第14回県政世論調査報告書

### 調査概要

- 1 調査地域 富山県全域
- 2 調査対象 満二十歳以上の男女
- 3 標本数 千二百
- 4 抽出方法 層化副次無作為抽出法
- 5 調査期間 昭和五十八年八月五日～八月十八日
- 6 調査方法 調査員による個別面接調査
- 7 回収数 九百九十二

このほど「第十四回県政世論調査」の結果がまとまりました。

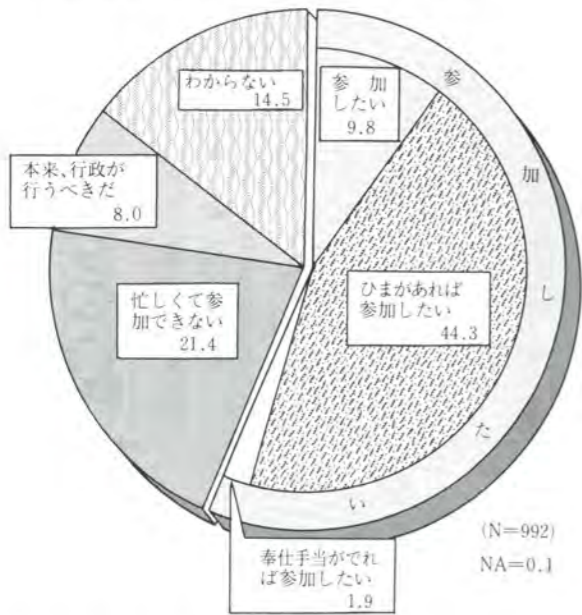
この調査は県民のみなさんの県政に対する関心

や期待を的確に把握し、県政推進の基礎資料とするため実施しているものです。

今回の調査結果の一部を紹介してみましよう。

# 特集 第14回 県政世論調査結果から

■「川をきれいにする運動」参加の意向



と思いますかという質問に対して、「参加したい」九・八割、「ひまがあれば参加したい」四四・三割、「忙しくて参加できない」二二・四割の順になっています。また、本来、行政が行うべきだ」とする考えが八割、参加意向はあるが「奉仕手当があれば参加したい」という考えも一・九割ありました。

■「川をきれいにする運動」参加の意向 (年齢別) N=992 (%)

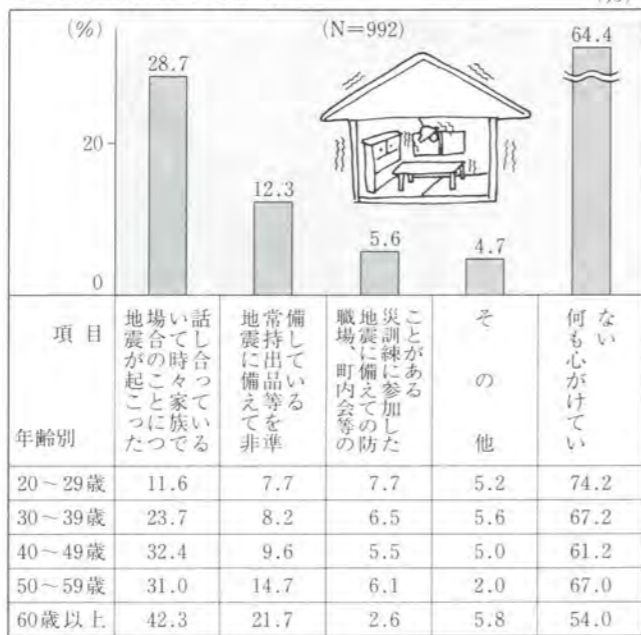
項目	参加したい	参加したいが、ひまがあれば	参加したいが、奉仕手当があれば	忙しくて参加できない	本来、行政が行うべきだ	わからない
年齢別						
20～29歳	7.1	36.1	4.5	26.5	7.7	17.4
30～39歳	6.0	43.9	2.2	25.9	9.9	12.1
40～49歳	8.2	48.0	0.5	20.5	6.8	16.0
50～59歳	12.7	47.2	1.0	20.8	7.6	10.7
60歳以上	15.3	43.9	2.1	13.2	7.4	17.5

地震に備えて何か心がけていることがありますが、六四・四割の人が「何も心がけていない」と答え、普段から何らかの形で「心がけている」と答えた人(三五・六割)を大きく上回り、地震に対する関心は低くなっています。

地震に対して心がけていることでは、「地震が起こった場合のことについて時々家族で話し合っている」人が二八・七割、「地震に備えて非常持出品等を準備している」二二・三割、「職場・町内会等の地震に備えての防災訓練に参加したことがある」五・六割などとなっています。

また、地震が起こった場合にどのような行動をとるかについては、七六・一割の人が「火の始末をする」と答え、次いで「ガスの元栓を締める」(五〇・二割)をあげており、地震が起きればま

■地震に対する心がけ



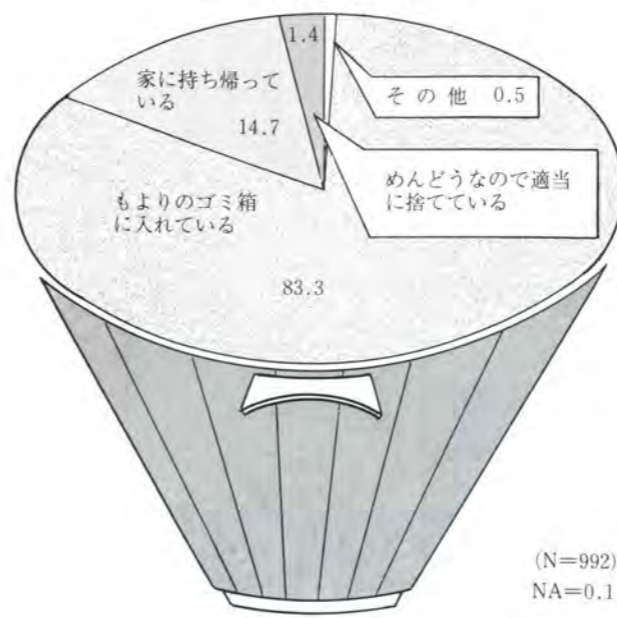
ず火災の防止を心がけることがうかがわれます。

地震対策として国・県・市町村への要望については、「災害情報を整え、災害情報システムを整える」と災害情報システムの確立を望む人が六八・四割と最も多く、次いで「避難場所や避難道路を整備する」(四一・七割)、「災害時に備えて飲料水・食糧等を確保する」(三三・三割)、「災害時の救急医療体制を整える」(二七・六割)などとなっています。

低い地震災害への関心

地震に備えて何か心がけていることがありますが、六四・四割の人が「何も心がけていない」と答え、普段から何らかの形で「心がけている」と答えた人(三五・六割)を大きく上回り、地震に対する関心は低くなっています。

■ゴミの処理について



ピクニックや観光旅行に出かけた時のゴミ処理について尋ねてみると、ほとんどの人が「もよりのゴミ箱に入れる」(八三・三割)、「家に持ち帰っている」

(二四・七割)と答え、マナーは徹底しているように思われま

ずかといえ一・四割を占めています。

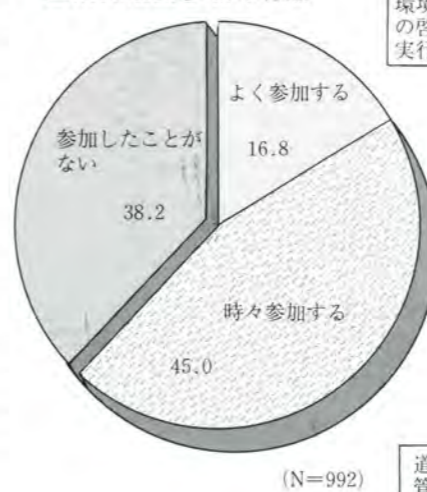
ゴミのないきれいなまちにするにはどうしたらよいか、と聞いてみたところ、二人に一人が「公衆道徳を徹底させ一人一人のモラルを高める」(四八・二割)が最も多くなっています。

次いで「ゴミ箱など設備を充実する」(二四・二割)、「ゴミを捨てさせないよう法的に規制する」(一〇・八割)などが有力な意見となっています。

ところで、実際に自治会などが行っている清掃活動に参加していることがありますか、という質問に対して、「参加する」と答えた人は六一・八割(よく参加する「一六・八割」時々参加する「四五割)で半分以上を占めていますが、「参加したことがない」人も三八・二割となっています。

この清掃活動の参加状況を年

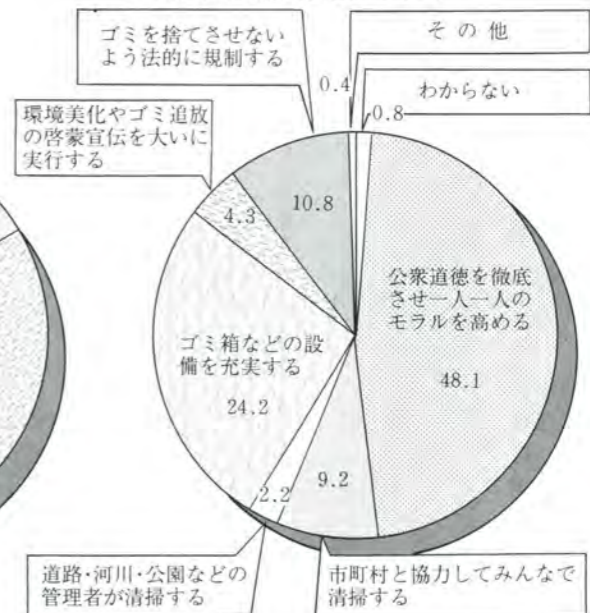
■清掃活動参加の有無



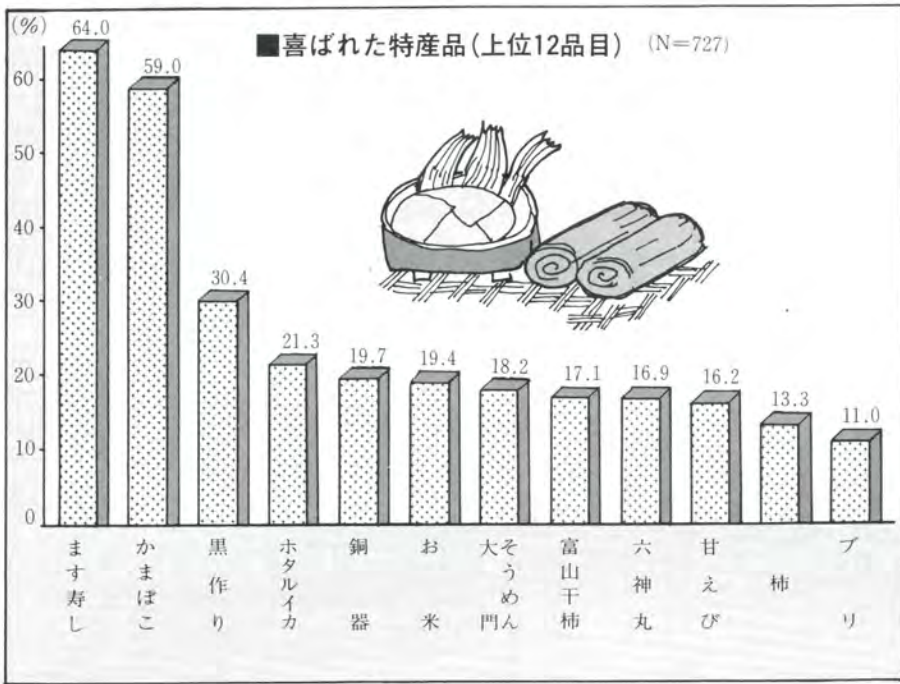
齢別にみると、二十歳以下九歳までは参加経験者が半数を下回り、三十歳代以上では年齢が高まるにつれて清掃活動に参加

特に、県土美化運動の一環として「川をきれいにする運動」を進めています。参加したい

■まちの環境美化について



行楽時のゴミ処理マナー



を聞いてみたところ、「都市圏で観光と物産展を多く開催する」をあげた人が三・四割を占めています。

次いで「マスコミ等を利用して直接的にPRする」「二・三・四割、流通業界を通じて間接的にPRする」「一・五・四割、サンプルを無料配布する」「二・一・六割などの順であげられています。



県内には多くの特産品があります

# 喜ばれる富山県の特産品

今まで県外の人に喜んでもらった富山県の特産品があるかどうか聞いてみたところ、「ある」と答えた人が七三・三割と七割をこえています。

その中で「ある」と答えた人に「農産加工品」三八・四割、「果実」二六・五割などが主だったもので、農水産物がかなり人気を得ていることがうかがえます。

また、品目別で見ると「ます寿司」が六四割でトップを占め、次いで「かまぼこ」が五九割で、これら水産加工品に回答が集中し、その人気の高さがうかがえます。

以下「黒作り」三〇・四割、「ホタルイカ」二一・三割、「銅器」一九・七割、「お米」が一九・四割、「大門そうめん」一八・二割、「富山干柿」一七・一割、「六神丸」一六・九割などの順となっています。

現在、県では「特産王国づくり」をめざして、県内外に誇れる農林水産物や伝統工芸品などの拡大と品質の向上にとめていますが、さらに販路を拡げるための県外向けPRとして、どのような方策が効果的であるか

# 富山県は良いところ...

県外の人に「富山県は良いところですよ」と言えますかという質問に対して、七二・六割と大方の人が「言える」と答えています。

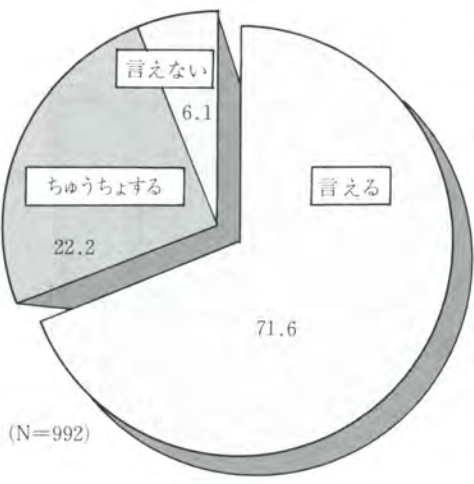
一方、「ちゅうちよする(ためらう)」と答えた人は二二・二割のほか、「言えない」と答えた人が六・一割で、これらを合せて二八・三割の人が「あまり言えない」と答えています。

この「あまり言えない」とする人は、若い年代(二十歳代)に多く、五二・三割と半数を超えていることが注目されます。

前問で「言える」と答えた人に、よいと思う理由を尋ねたところ、「災害の発生が少ない」ことを強調する人が最も多く六一・四割を占めています。

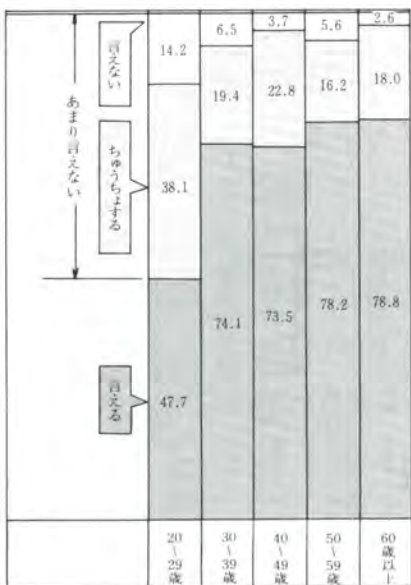
次いで「自然環境に恵まれている」四九・九割、「おいしい物が豊富である」三三・四割、「人

■県外の人に「富山県はよいところですよ」と言えるか否か

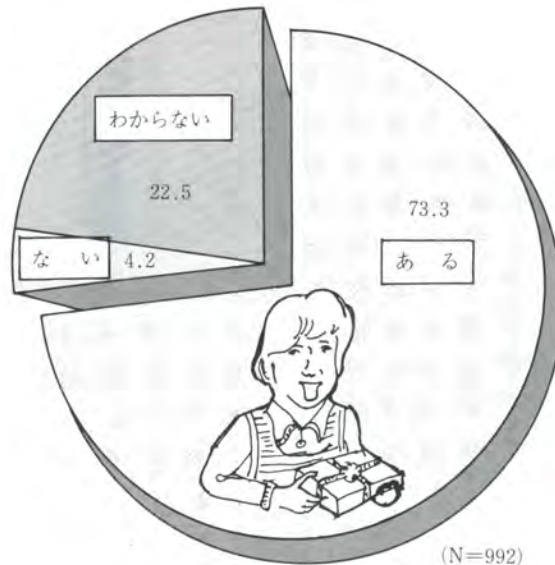


(N=992)

(年齢別)

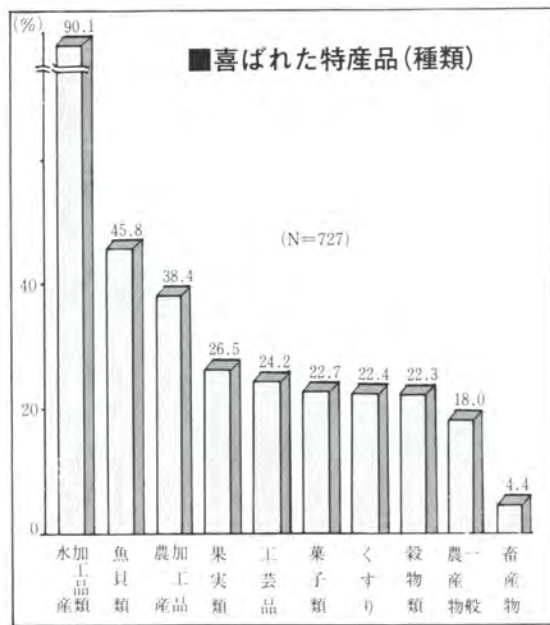


■喜ばれた特産品の有無



(N=992)

■喜ばれた特産品(種類)



■県政に対する要望



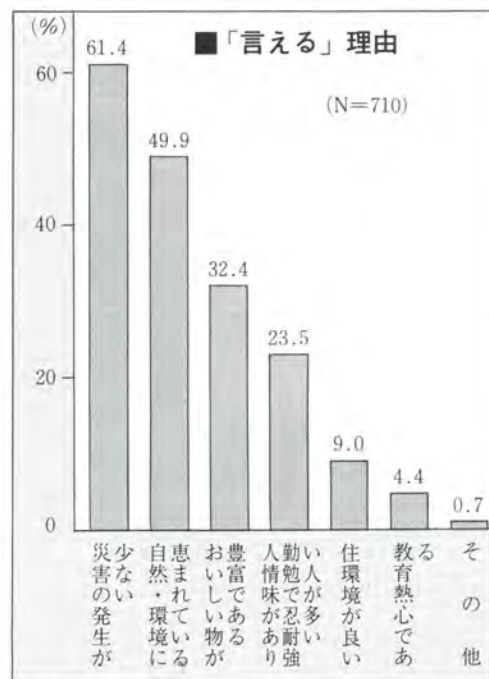
( )内は昨年度調査結果 (N=992)

■県政への要望

57年度	58年度
物価・消費生活 (47.1)	物価・消費生活 (49.8)
社会福祉 (29.9)	社会福祉 (34.6)
学校教育 (26.7)	下水道整備 (32.2)
医療・保健衛生 (24.5)	学校教育 (29.9)
下水道整備 (22.9)	医療・保健衛生 (24.7)
北陸新幹線 (20.3)	雇用安定・労働対策 (23.5)
青少年健全育成 (20.2)	道路整備 (19.4)
雇用安定・労働対策 (20.0)	青少年健全育成 (19.2)
道路整備 (17.4)	交通安全 (19.0)
交通安全 (15.3)	北陸新幹線 (18.2)

二九・九は、「医療保健衛生」二四・七は、「雇用安定・労働対策」二三・五はなどが上位を占めています。今回、最も要望度の高い「物価・消費生活」は昭和五十年以来トップを占めています。今回第二位の「社会福祉」は昨年同様の順位でしたが、「下水道整備」に対する要望は三三・一

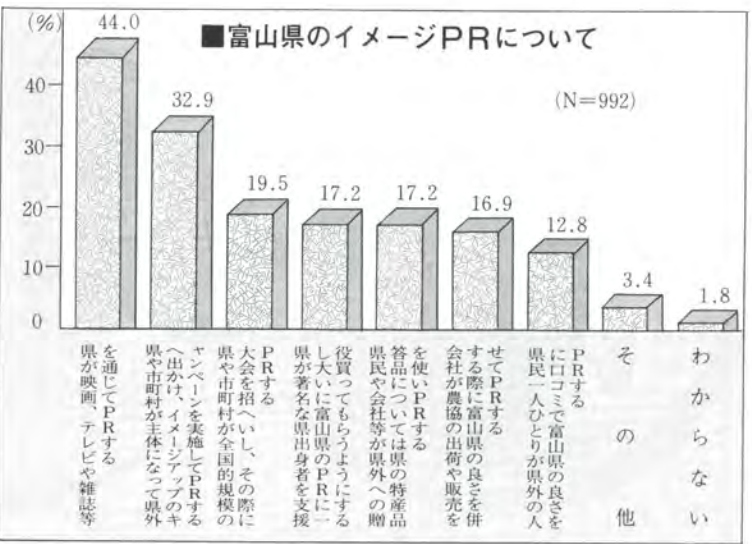
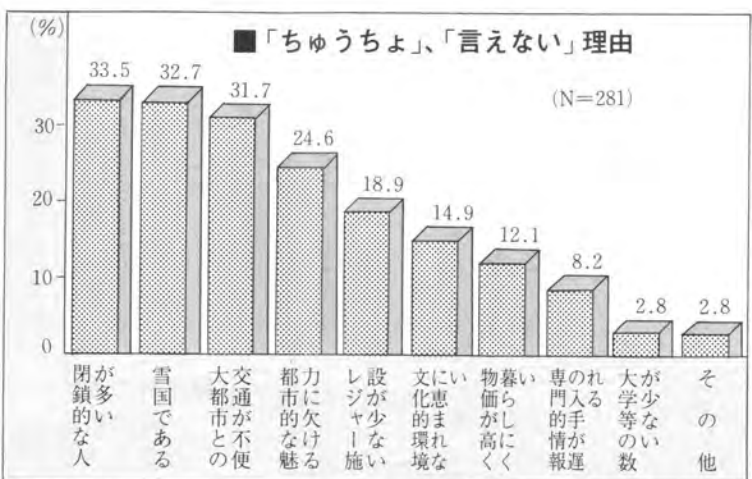
二で昨年よりも一〇近くも多くなり、昨年の五位から三位にあがっています。



情味があり、勤勉で忍耐強い人が多い」「二三・五はなどの順になっています。また「ちゅうちょする(ためらう)」、「言えない」と答えた人に対して、その理由を尋ねてみたところ、「閉鎖的な人が多い」「三三・五は、「雪国である」「三二・七は、「大都市との交通が不便」「三一・七はなどが主な理由となっています。以下「都市的魅力に欠ける」「二四・六は、「レジャー施設が少ない」「一八・九は、「文化的環境に恵まれない」「一四・九はなど都市の魅力の乏しさを指摘する人も少なくありません。そして、郷土富山県のイメージ(印象)を高めるには、どのようにPRしていけば効果的であるかという質問に対して、「県が映画、テレビや雑誌等を通じてPRすること」をあげる人が最も多く四四を占め、次いで「県や市町村が主体になってPRすること」をあげる人が三二・九で、これら二つのPR策が効果的だとする人が多く見受けられます。

県政への要望 「物価・消費生活」がトップ

県の施策で力を入れてほしいところ、四九・八はの人が「物価・消費生活」をあげ、次いで「社会福祉」三四・六は、「下水道整備」三三・一は、「学校教育」







鯉に酒を飲ませ、その鯉に手を触れて災厄を移す厄年の人たち



厄払い祈禱を終え、鯉をもって川べりに行く厄男たち

### 由来

この風習は、文化13年(1816)3月26日、金屋神明宮の旧社地、金屋字大宮野社地から現在の境内地に遷宮されたとき、神体とともに神器・祭器などを奉持する者は、当時の氏子のうち、25歳・42歳の男子の厄年に当たる連中から選ばれました。遷宮祭に引きつづき厄除祈禱祭を行ったとき、数枚の神籤の中に川の物として庄川に住む、最も生氣発らつた鯉がありました。この鯉は25歳の連中が捕獲し、生きたまま神前に供えたものでしたが、長時間の祭典が終了し撤齎したところ、鯉はなおも生きていたので、その生命力に感激し、一同連れだつて庄川へ行き、生きたまま神前に供えたことを謝り、あわせて25歳の災厄を鯉に託し、その口に神酒を注いで川中に放流しました。これが起源となってその後つづけられたものです。



災厄を託した鯉を川に放す

庄川町金屋の金屋神明宮では、毎年一月七日に鯉の厄払い放流が行われています。厄年を迎えた人たちが、神明宮で厄払い祈禱を行った後、庄川の川べりで大きい鯉(四十〜五十センチ)に神酒を飲ませ、一人一人が手に触れて災厄を鯉に移します。そして、その鯉を川へ放し、しばらくして元気に水中を泳ぎ去って行くのを見送る全国でもたいへん珍しい神事です。

ところで、この神事が昨年(1998)年、九月二十九日の九のつく日に行われるようになり、厄払いツアーなどが企画され、鯉に災厄を託する厄年の人たちにぎわいました。

なお、今年も四月から九のつく日にこの神事は行われる予定です。

第26回 庄川町

# 観どころ 味じまん

金屋神明宮の

厄払い

# 地域ぐるみで転作の定着化を

## 用水再田利 第二期対策のあらし

昭和53年度より、おおむね10年間の事業として実施されてきた水田利用再編対策は、昭和59年度から、新しく第三期を迎えることとなりました。

この水田利用再編第三期対策のあらしについて紹介します。



### 第二期対策の背景

米は、中・長期的にみると、生産が需要を大幅に上回り、需

給ギャップはこの先も拡大するものとみられています。

従って、今後も米の生産を抑えながら、麦、大豆などの畑作

物の生産を増やし、国民の消費動向に安定的に対応できる農業生産構造を確立していく必要があります。

しかし、四年連続の不作に伴い、米の政府の在庫水準が著しく低下した現状を踏まえ、米の在庫積み増し（備蓄）を行う必要があります。

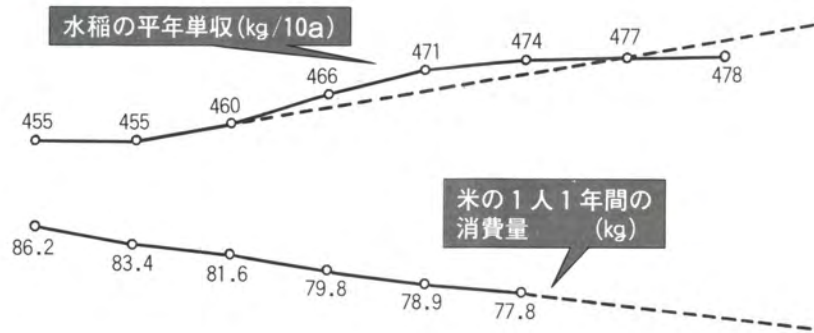
また、これまで進められてきた方法での転作は、もはや限界に達しています。今後、日本農業を守り、発展させていくには、水田のもつ高い生産力を保持し、それを有効に活用していくことが大切となっています。

さらに、従来過剰米処理によって、充当されてきた加工原料用米の供給が、昭和五十九年度で終了します。この加工原料用需要への供給は、輸入に頼ることなく、国内生産で充当することが、米の需要拡大と食料自給率の向上のうえからもぜひ必要です。

以上のようなことから、昭和五十九年度からはじまる水田利用再編第三期対策では、従来にも増して転作営農の生産性向上と定着化を一層促進することを課題とし、新たに米の計画的な在庫積み増し（備蓄）を行うとともに、他用途米生産の道を開くことになりました。

〔図1〕

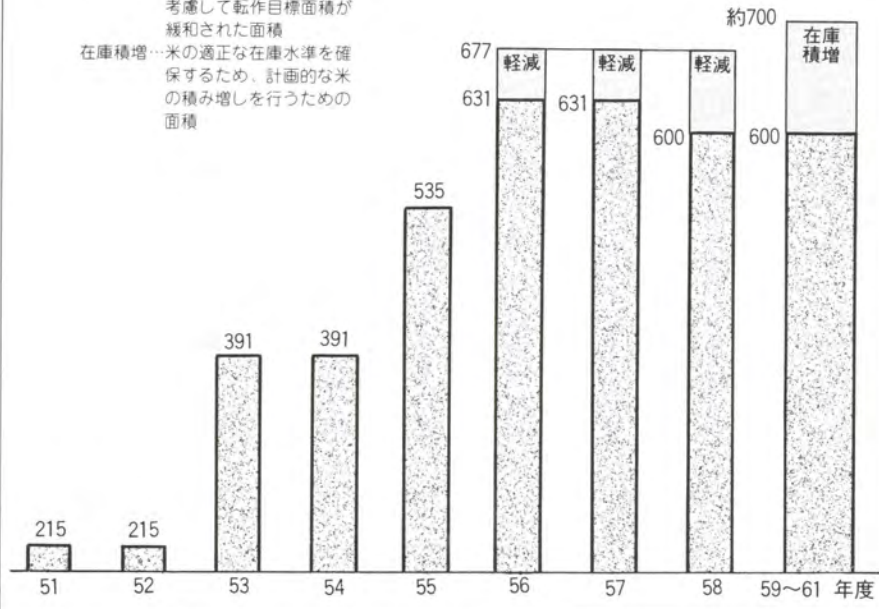
米の消費の減退と単収の伸びが続いています。需要に即した米の生産をするためには、米から米以外の作物への転作が必要です。



#### 転作等目標面積

転作等目標面積(千ha)

(注) 軽減…水稲の被害の実情などを考慮して転作目標面積が緩和された面積  
在庫積み増し…米の適正な在庫水準を確保するため、計画的な米の積み増しを行うための面積



# 制度の概要

## 奨励補助金

この水田利用再編第三期対策は、昭和五十九年度から昭和六十一年度までの三年間実施されますが、制度の概要は次のとおりです。

百九十万ヘクタールとし、これに見合う転作等目標面積は六十万ヘクタールと定めています。また、事前売渡申込限度数量は、七百七十五万ト

### 転作等目標面積 および 予約限度数量

新たに導入される他用途利用米の生産面積については、五万六千ヘクタールが計画され、転作等目標面積の内数として取り扱われることとなります。

第三期の米の需給計画は、表1のとおりで、要調整数量を二

〈表1〉米の需給計画(各年平均)

(単位: 万玄米トン)

項目	数量
潜在生産量	1,375
需要量(主食用)	1,040
在庫積増量	45
要調整数量	290
(転作等目標面積)	(600千ヘクタール)
生産予定量	1,085
事前売渡申込限度数量	775

(注) 要調整数量の中には、約30万トン(約6万ヘクタール)の他用途利用米の生産を含む。

なお、富山県に配分された転作等目標面積は表2のとおりです。

〈表2〉富山県における第3期の目標面積及び数量

	第3期	昭和58年度
転作等目標面積	10,290 ha	10,610 ha
事前売渡申込限度数量	219.6 千玄米	218.8 千玄米
うるち米	205.5	204.7
もち米	14.1	14.1
他用途利用米		
生産予定面積	979.4 ha	
生産予定数量	4,800 玄米	

(注) 他用途利用米の生産予定面積は、転作等目標面積の内数とする。

### 加算制度

は、表3のとおりで、基本額に第一種加算額または第二種加算額を加えたものが、それぞれの転作の態様に応じて交付されます。

第三期対策では、各地域の実態に適した転作の定着化により、計画的な転作を実施するため、従来の制度を廃止し、新たに転作定着化推進加算制度が設けられました。

#### 1 第一種加算

地域ぐるみで土地利用、営農などの調整を行いつつ、転作の定着化を促進することをねらいとし、国の定める態様、要件に適合するものに対し加算される制度です。(団地化加算など)

#### 2 第二種加算

地域の実態に即し、地域の創意工夫を生かしつつ、転作の定着化を促進することをねらいとして、県がその態様ごとに定める要件に適合するものに対し、加算される制度です。(集落転作

〈表3〉

## 第3期の奨励補助金の体系と水準 (10a当たり)

区分	基本額 (平均)	転作定着化推進加算	
		第1種加算	第2種加算
転作奨励補助金	円	円	円
永年性作物 (転換畑を含む)	50,000	20,000	10,000
特定作物	42,000	20,000	10,000
一般作物等	特定作物、永年性作物以外の作物等	27,000	15,000
	野菜	22,000	15,000
管理転作奨励補助金	27,000	15,000	10,000
土地改良通年施行補助金 (うち特別豪雪地帯)	転作の場合	22,000	—
	保全管理の場合	—	—
土地改良通年施行補助金 (うち特別豪雪地帯)	22,000 (25,000)	—	—

(注) 第2期と比べ、基本額が8,000円(保全管理、土地改良通年施行は更に5,000円)下がります。



加算、地域特産物加算など) このほか、第二期対策と比べ、若干制度内容が改善されていますが、基本的には第二期と同様の内容になっています。

# 今後の進め方

県では、第三期対策の推進にあたっては、長期的な展望にたつて、あくまでも良質米の生産を基本として、転作のより一層の質的向上と定着化を促進し、幅広い地域農業の展開を図っていく方針です。また、新たな米の他用途需要にも対応していきます。

なお、本県では、第一期、二期対策を通じて、新しい村づくりの気運が盛り上がり、村ぐるみの集団化や団地化が進んでいます。特に、大麦、大豆は単収の増加、面積の拡大が著しく、ともに全国有数の主産地となっています。

さらに、麦—大豆などを中心とした二毛作の促進や水田を活用した飼料作物の栽培による土地利用型畜産経営の進展などによって米並み、さらにはそれ以上の所得をあげている事例が芽ばえるなど、農家のみなさんの

努力と市町村、農業団体の協力もあって、転作定着化への真剣な取り組みが行われています。しかし、転作の定着化は一朝一夕になし得るものではありません。定着化の基礎となる団地の進展度合いに大きな地域格

差があること、米との収益性格差は正になお多くの時間を要するなど、解決すべき課題も多くあります。

農家のみなさんの理解とご努力に加え、関係者の積極的な指導援助が望まれます。



県内各地で麦—大豆を中心とした二毛作が促進されています  
(写真は麦の刈り取り)



水田を利用した飼料作物(トウモロコシ)を大型機械で刈り取る

# もうすぐ春です。

## スパイクタイヤのはき替えは早めに!!

### スパイクタイヤ



### 普通タイヤ

スパイクタイヤは、凍結路面などでは制動性能がよく、タイヤ・チェーンに比べて大変便利で、ご使用のみなさんも多いと思います。

しかし、雪のない路面では道路を傷めるばかりでなく、粉じんや騒音を発生する原因にもなり、近年問題になってきています。

#### 不要な時には自粛を!!

このスパイク問題に対応するため、県では県内を走行する自動車に対して、不必要な時にスパイクタイヤの自粛を呼び掛けるため、「スパイクタイヤ使用自粛推進要綱」を定めました。

主な内容は、

○ 3月15日から12月10日までの期間、スパ

イクタイヤの使用を自粛すること。

○ この期間以外(冬期間)においても、不必要な時には、できるだけスパイクタイヤの使用を自粛すること。などです。

なお、雪道のスリップなどによる交通事故を防ぐことが大切であることは、言うまでもありません。

積雪または凍結路面では、タイヤ・チェーンやすべり止め用特殊タイヤを取り付けるなど、安全運転に心がけましょう。

また、スパイクタイヤの使用は、燃費の面でも不経済です。春先には、早目にスパイクタイヤをはき替え、快適なドライブを楽しみましょう。

# 県内に根づく

# 社会教育活動

「ともに生きることに喜びと誇りを感じる富山」の実現を目指す、県内では社会教育関係団体が、生涯学習に、芸術文化活動に、スポーツ・レクリエーション活動などに、多彩な活動を繰り広げています。社会教育関係団体の特色は、自分たちの生活課題や学習要求に対応して、自主的に独自の活動を行いながら、新しいコミュニティの形成に努めていることです。

今回は、去る十一月三日の文化の日に県政功労者として、表彰を受けた富山県婦人会と黒部市連合青年団の活発な活動の一端を写真で紹介いたします。

## 時代に対応した活動を



富山県婦人会長  
塩井外喜子さん

婦人会活動も時代の変化によって移り変わっていますが、自分の勉強したことを地域に還元し、よりよい地域づくりを目指すということは、これからも一層大切になってくると思います。

特に、今後さらに情報化時代が進んでいきますと、在宅勤務ができるようになると言われていますが、そうなるとなおさら時代に合わせて、婦人が勉強し、その時間的余裕を地域社会をより住みやすくするために、向けていかなければならない時代が来ると思います。

## 富山県婦人会

昭和22年の戦後の混乱期にいち早く立ち上がり、生活改善、婦人相互の教育、青少年の育成など時代の当面する課題を取り上げ活発な活動をつづけています。

会員12万人という組織を生かし、実践活動を通して、地域社会づくりに貢献しています。



富山県婦人会の結成35周年を記念して発行された「あゆみつづけて35周年」、婦人会活動のあゆみを記録しています



置県百年を記念して“行動と連帯”を目指し、全国から1,500名が集って開催された「第31回全国婦人団体研究大会」



「第31回全国婦人団体研究大会」では各分科会にわかれ各県の代表から意見が続出



中国の婦人たちが県婦人会館を訪れ、親しく交流



年々盛り上がりを見せている婦人意見発表大会も昨年で34回目



家庭教育について活発な討議が行われた家庭教育研究集会



県婦人会総会・大会で講師の話に耳を傾ける婦人たち

# 黒部市連合青年団

新しい地域づくりを目指し、各種の奉仕活動などを積極的に行っているほか、青年問題研究集会など充実した学習活動を展開しています。

スポーツ・文化活動も活発であり、特に広報活動では広報紙「青年黒部」を発行し、県下の青年団の模範となっています。



夜遅くまで今後の活動について活発な討議を行う団員たち



住みよい地域づくりを目指し、子供たちといっしょにふるさと運動を行う団員たち



毎年青年祭を行い、市民とのふれあいに努める団員



女子団員のための研修会「黒部女子青年の集い」を開催

## 地域に密着した 青年団活動を



黒部市連合青年団長  
小崎 俊秀さん

最近では年々団員数が少なくなって青年団活動がやりにくくなっているのですが、今年度は、団員増をはかり、新しい地域をつくることをスローガンにかかげています。

特に今後は、青年の声が地域の中で反映されるよう、多くの人が参加できる運動を取り上げたり、新聞などによる広報活動など、地域に密着した活動をしていきたいと思っています。



全国青年団情宣コンクールで入賞を重ねている広報紙「青年黒部」



スポーツ活動として陸上大会を実施



全国青年大会に出場し、郷土芸能「石田港出船の唄」を披露

政党（支部）や後援会、励ます会などの政治活動を行う団体（政治団体）は、政治資金規正法の規定に基づき、設立や異動に関する届出のほかに、毎年一月一日から十二月三十一日までの間の当該団体のすべての収入および支出の状況を翌年の三月三十一日までに、国または県に必ず報告しなければなりません。

これは、政治団体によって行

# 収支報告書の提出はお早めだ！

われら政治活動や政治資金の流れを、国民の誰もが知ることができるようするために、義務づけられている制度だからです。

点に十分留意し、期日まで必ず報告を行ってください。なお、収支報告書の提出を怠った場合には罰則が設けられて

分に注意してください。  
1 収支報告書の用紙などの配付場所  
県または最寄りの市町村の

3 提出期限  
昭和五十九年三月三十一日

なお、例年三月に入りますと受付事務が混雑しますので、早めに提出されることをおすすめします。

詳しくは、富山県選挙管理委員会（☎0764-31411

1）までお尋ねください。

富山県選挙管理委員会では、

現在、昭和五十八年分の収支報告書を受け付けています。

政治団体の会計責任者の方は、次の

おり、政治団体として政治活動のために寄付を受けたり、支出することが一切できなくなった

りする場合がありますので、十

選挙管理委員会

2 提出先

富山県選挙管理委員会（県庁本館三階地方課内）

12月16日～1月15日

### 12月16日

#### ☒県産大豆反収3年連続日本一

農林水産省が発表した58年度産大豆の作柄によると、本県大豆の10アール(1反)当たりの単収は、前年に比べ5㌔増え228㌔となり、3年連続日本一になりました。

また、収穫量は、7,800㌧と前年に比べ6㌧増え、出荷量も13㌧増の5,900トン記録、前年を大きく上回りました。

### 12月16日

#### ☒県防災会議開く

県防災会議が富山市の市町村会館で開かれ、災害対策の充実、強化を図るため、県地域防災計画の基本編を、風水害・火災等編に改編することを了承しました。

この改編によって、災害危険地域の実態や防災機関の役割と責任が明確になり、防災対策、機関相互の連携・協力が具体化されます。また、火山、空港災害の応急対策が新たに盛り込まれました。

これで、県地域防災計画は雪害編地震編を加え3編となりました。

### 12月16日～12月24日

#### ☒12月定例県議会開会

12月定例県議会が開会され、昭和58年度一般会計補正予算案など26案件を一括上程、中沖知事が提案理由を説明しました。

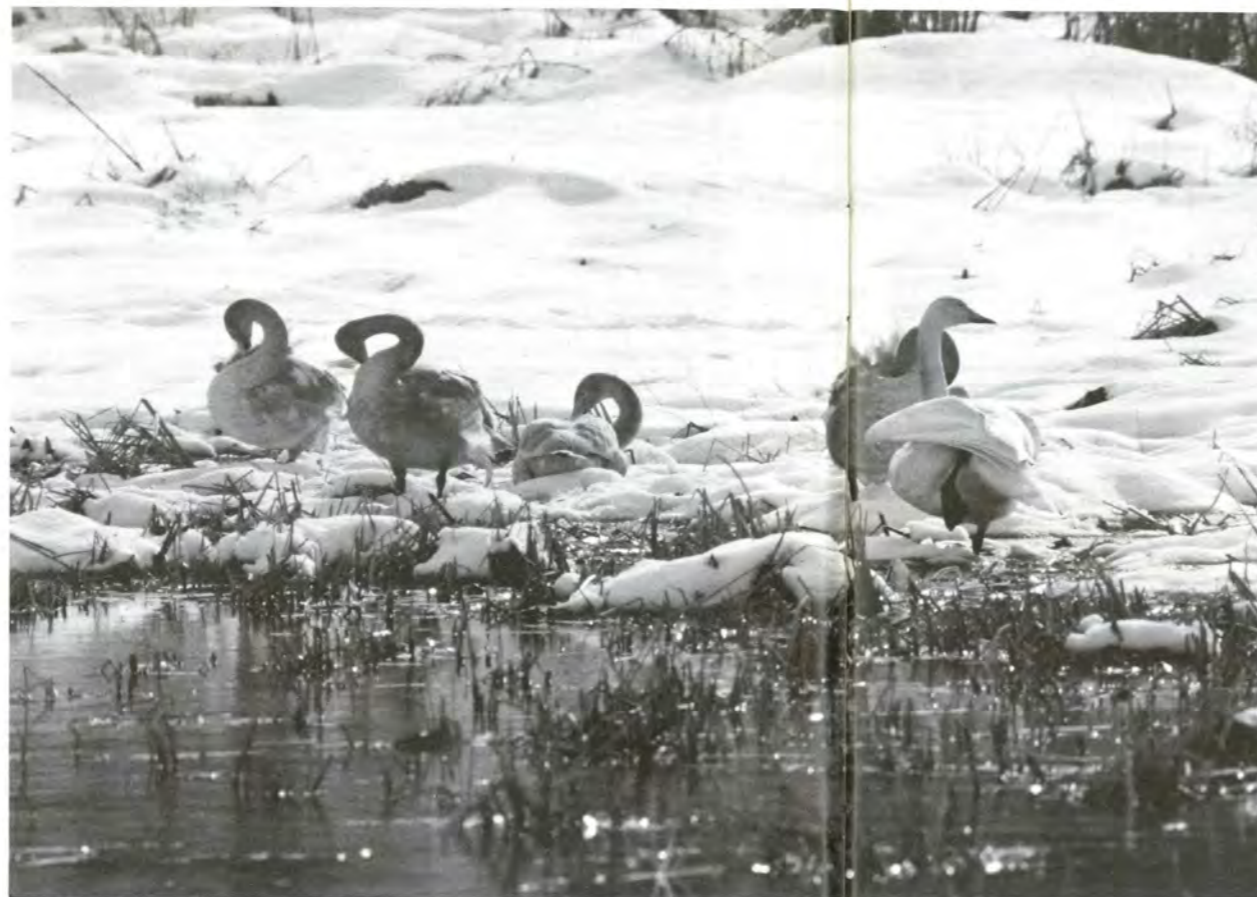
審議の結果、24日には提出された案件を原案通り可決し、閉会しました。

### 12月17日

#### ☒県営 Gondolas キー場開き

立山山ろく県営 Gondolas キー場がオープンし、待ちかねたスキーヤーが新雪にシュプールを描き初滑りを楽しみました。

スキー場の近くの花切神社では、



### 12月21日 ☒オオハクチョウ飛来

県内で唯一のオオハクチョウの越冬地となっている富山市山本の田尻池に12月21日夕方、冬の使者のオオハクチョウの第一陣5羽が飛来、雪化粧した湖面に羽を休めています。

(なお、1月20日には30羽となり、県内最多の飛来記録になりました。)

関係者が出席し、シーズン中の安全無事故を祈願しました。

ど親善を深めました。

### 12月21日～1月5日

#### ☒県高校生海外派遣団 元気に帰県

昨年12月21日からヨーロッパ3カ国を訪問していた第1回富山県高等学校生徒海外派遣団の一行が1月5日無事に帰県し、県庁大ホールで解団式を行いました。

一行は、イギリス、フランス、イタリアを回ってホームステイを体験したほか、現地高校生と交流するな

### 1月12日

#### ☒青年海外協力隊員表敬訪問

青年海外協力隊員として開発途上国へ派遣される富山県出身の4人が県庁を訪れました。

野島和宏さん(25歳・滑川市)、木山勉さん(29歳・婦中町)、薄田栄光さん(28歳・立山町)、藪田美恵子さん(25歳・氷見市)の4人の隊員は長島副知事とこれまでの研修内容や海外協力隊員としての抱負などについて懇談しました。



### 1月6日 ☒県内各地で消防出初め式

県内各地で、無火災を祈り、消防署員、団員らが参加して恒例の出初め式が行われ、分列行進、伝統のはしご乗り、放水などが披露されました。



フランスのプレスト市長からのお礼のメッセージ・新年のあいさつと記念品を中沖知事に手渡す高校生海外派遣団の一行



長島副知事と懇談する青年海外協力隊員

三月十八日の開港を目指し新空港が整備されていますが、新空港にふさわしく、また、空港周辺の中核的施設として、県民のみなさんや本県を訪れる方に活用していただける充実した機能を有した空港ターミナルビルを建設しています。

このビルは、旅客ビルと貨物ビルにわかれ、旅客ビルは鉄筋コンクリート造三階建てで、一階にはチェックインロビー、到着ロビー、中央ホール、軽食喫茶ルーム、物産コーナー、案内コーナーなど、二階には、出発ロビー、搭乗待合室、レストラ

置県百年記念施設 ⑧

## 富山空港 ターミナルビル

場所 / 富山市秋ヶ島



富山空港ターミナルビルからは立山連峰が一望

ン、売店、県勢紹介コーナーなど、三階には、送迎デッキ、展望デッキなどが設けられています。



新空港にふさわしく、充実した機能をもつ空港ターミナルビル

# お知らせ

### ●東京の学生寮の入寮者を募集

富山県学生寮と加越能育英社「明倫学館」では、入寮者を募集しています。

資格は、東京周辺の4年生大学に在学中、または入学見込みの男子学生に限ります。

富山県学生寮の所在地は、東京都世田谷区赤堤1の20の15、締め切りは、3月10日。明倫学館の所在地は、東京都文京区小石川3の11の6、締め切りは、3月12日までとなっています。

募集案内および申込書は、70円切手をはった返信用封筒にあて先を明記のうえ、富山市新総曲輪1の7、富山県教育委員会総務課まで請求してください。

### ●自衛官募集についてのお知らせ

防衛庁では、自衛隊の二等陸・海・空士を募集しています。受験資格は、18歳以上25歳未満の男子で、入隊試験の受付は随時行っています。

採用になりますと、特別職国家公務員として給与・ボーナスや各種手当が支給されます。

なお、詳しいお問い合わせ、ご相談は、各市役所、町村役場または、富山市牛島新町自衛隊富山地方連絡部・魚津・富山・高岡・砺波の各募集事務所で行っていますからご連絡願います。

- 電話番号は、
- ・自衛隊富山地方連絡部 (0764) 41-3271
  - ・最寄りの自衛隊募集事務所
- 魚津 (0765) 24-1036 高岡 (0766) 21-2411  
富山 (0764) 41-8782 砺波 (0763) 33-3797

### ●2月は「省エネルギー月間」です

毎日を便利に快適に過ごすために必要なエネルギー。今、世界中が石油をはじめとする限りある資源・エネルギーをいかに有効利用すべきかという問題に直面しています。

2月は「省エネルギー月間」です。この機会に、私たちのくらしを見直し、工夫とちょっとした心掛けで資源・エネルギーの節約と有効利用に努めましょう。

### 2月の街頭献血日程

月日曜	場 所	時 間	月日曜	場 所	時 間
2/11土	富山駅前	10:00~16:00	2/18土	高岡駅前	10:00~15:30
11土	高岡駅前	10:00~15:30	25土	富山駅前	10:00~16:00
12日	富山西武前	10:00~16:00	25土	高岡駅前	10:00~15:30
15水	砺波市役所前	10:00~15:30	26日	高岡駅前	10:00~15:30
18土	魚津サンプラザ前	10:00~15:30			

### 県政についてのご相談は県民相談室へ

<b>県民相談室</b>	富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎富山31-4111(代) 31-3131(県民電話)
<b>高岡地方県民相談室</b>	高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎高岡21-9411
<b>魚津地方県民相談室</b>	魚津新宿10-7(総合庁舎内) ☎魚津24-5311
<b>砺波地方県民相談室</b>	砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎砺波33-5151

## お茶の間にお届けします県広報

広報課では、この「県広報とやま」のほか、テレビ、新聞などの媒体を活用して、県の施策の紹介や暮らしに欠かせない情報を提供しています。

### テレビ広報

#### KNB「こんにちは富山県です」

県政の諸施策、問題点を、みなさんに知っていただくための番組です。また、今年度は、置県100年特別企画をシリーズで行います。

毎週日曜日、午前8時~8時30分

#### 2月のKNB「こんにちは富山県です」

5日	特産王国づくりをめざして
12日	少年の非行と家出
19日	わたしたちと年金
26日	予算議会を前に~知事に聞く~

### 富山テレビ「110万人のひろば —クイズ! フォーカスイン—」

県内のいろいろな話題、さまざまな施設、みなさんの関心事などを、クイズ形式で楽しく紹介する、ふるさと再発見番組です。

毎週日曜日、午前9時~9時30分

### 新聞広報

県の主な施策や事業を紹介し、当面する課題をみなさんと一緒に考えるとともに、生活情報を提供します。

○北日本、富山、読売、北陸中日

毎月第2土曜日「県からのお知らせ」

毎月最終土曜日「みんなの県政」

○朝日、毎日

毎月第2・最終土曜日「県からのお知らせ」



# 国民の総意で戻そう、 北方領土

## 2月7日は「北方領土の日」

「北方領土は日本固有の領土」、「北方領土を返せ!!」と歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島の一括返還を求める国民運動の輪が広がっています。

特に、富山県は北海道に次いで北方領土からの引揚者の方が多い県です。一日も早く北方領土の返還を実現するためには、私たち一人一人がこの問題を正しく理解し、一層関心を高めていくことこそ、大切なことです。



4島合計の面積は 4,996km<sup>2</sup>。  
愛知県とほぼ同じ大きさです。

### ●こんなに近い北方領土

